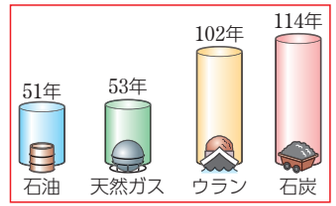
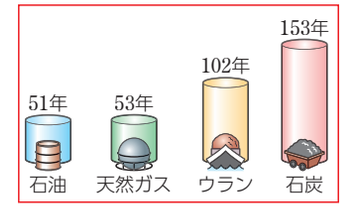
訂正箇所 ページ	訂正箇所 行	原文	訂正文
45	2 3 6 10	**6** ビルの屋上から小石を静かに放し，自由落下させると，4.0 秒後に地面に達した。重力加速度の大きさを 9.8 m/s² とする。 (1) 小石が地面に達したときの速さを求めよ。 (2) ビルの高さを求めよ。 (3) 小石を放してから 2.0 秒後，小石は地面から何 m の高さにあったか。 (4) 地面から小石を真上に投げ上げ，ビルの高さに達せさせるには，いくら以上の速さで投げればよいか。 (5) 屋上から小石を真下に投げ下ろし，2.0 秒で地面に到達させたい。初速はいくらにすればよいか。	**6** ビルの屋上から小石を静かに放し，自由落下させると，4.00 秒後に地面に達した。重力加速度の大きさを 9.80 m/s² とする。 (1) 小石が地面に達したときの速さを求めよ。 (2) ビルの高さを求めよ。 (3) 小石を放してから 2.00 秒後，小石は地面から何 m の高さにあったか。 (4) 地面から小石を真上に投げ上げ，ビルの高さに達せさせるには，いくら以上の速さで投げればよいか。 (5) 屋上から小石を真下に投げ下ろし，2.00 秒で地面に到達させたい。初速はいくらにすればよいか。
263	右段 1～4 6 10 11 13	**6** (1) $v = gt = 9.8 \times 4.0 = 39.2 \fallingdotseq 39$ m/s (2) $h = \frac{1}{2}gt^2 = \frac{1}{2} \times 9.8 \times 4.0^2 = 78.4$ $\fallingdotseq 78$ m (3) 落下距離 $= \frac{1}{2} \times 9.8 \times 2.0^2 = 19.6$ m よって，高さは， $78.4 - 19.6 = 58.8 \fallingdotseq 59$ m (4) ぎりぎりビルの高さに達するには，ビルの屋上の高さで速さが 0 になればよく，自由落下の逆の運動なので，(1)より， 39 m/s 以上 (5) $78.4 = v_0 \times 2.0 + \frac{1}{2} \times 9.8 \times 2.0^2$ $= 2v_0 + 19.6$ よって，$v_0 = 29.4 \fallingdotseq 29$ m/s	**6** (1) $v = gt = 9.80 \times 4.00 = 39.2$ m/s (2) $h = \frac{1}{2}gt^2 = \frac{1}{2} \times 9.80 \times 4.00^2$ $= 78.4$ m (3) 落下距離 $= \frac{1}{2} \times 9.80 \times 2.00^2 = 19.6$ m よって，高さは， $78.4 - 19.6 = 58.8$ m (4) ぎりぎりビルの高さに達するには，ビルの屋上の高さで速さが 0 になればよく，自由落下の逆の運動なので，(1)より， 39.2 m/s 以上 (5) $78.4 = v_0 \times 2.00 + \frac{1}{2} \times 9.80 \times 2.00^2$ $= 2v_0 + 19.6$ よって，$v_0 = 29.4$ m/s
213	コラム内図及びキャプション	 ▲化石燃料及びウラン（核燃料）の可採年数　可採年数とは，確認可採埋蔵量をその年の生産量で割ったもの。	 ▲化石燃料及びウラン（核燃料）の可採年数　可採年数とは，確認可採埋蔵量をその年の生産量で割ったもの（2016 年末の値。ウランは 2015 年 1 月の値）。